

第5学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 「綾」といっしょに「たずねびと」を探しに行き、考えたことを伝え合おう
～『たずねびと』（作：朽木 祥）～

2 単元のねらい

- ・ 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。〔知識及び技能〕（１）オ
- ・ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ（１）エ
- ・ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ（１）カ
- ・ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語大切を自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（１）オ	・ 「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 Ｃ（１）エ ・ 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。Ｃ（１）カ	・ 粘り強く、物語の全体像を具体的に想像したり表現の効果を考えたりし、学習の見通しをもって、物語に対する思いや考えを伝え合おうとしている。

4 単元観

（１）単元について

本単元は、小学校学習指導要領国語編の第5学年及び第6学年「2 思考力、判断力、表現力等」における「C 読むこと」の指導事項（１）エ「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。」と、カ「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。」を受けて設定した。

本題材は、戦時中の出来事に主人公の「綾」が向き合っていく内容である。「戦争」を題材にした物語文の学習として、児童は3年生の「ちいちゃんのかげおくり」で場面の移り変わりを捉えて感じたことをまとめる活動を行い、4年生の「一つの花」で特別な言葉に着目し、作者の思いを捉える活動をしている。これらの学習内容を踏まえ、本単元では物語の全体像を捉えたうえで、考えたことを伝え合う活動を行う。

児童は、主人公の「綾」に自分を重ね、「綾」とともに「ヒロシマ」に起こった悲劇と向き合うことで、主体的に物語を読み進める。そして、心情を表す表現や描写に着目して読むことを通し、物語の全体像を捉える中での自分の思いや考えの変化に気付き、友達との交流でさらに考えを広げられる。また、「綾」の前に現れる人物やもの、情景等が象徴的に描かれていることが多いため、児童の多様な捉え方を引き出して交流させることで、新しい着眼点を見付けさせ、さらに深い学びにつなげたい。

(2) 児童の実態

昨年度からの1人1台端末導入に伴い、市内では学習支援アプリのロイロノートの活用が進められ、本校でも各教科の授業で積極的に活用してきた。国語科では、タブレットで自分の考えを文章にまとめ共有し、感想を伝え合う活動を繰り返し行ってきた。本学級の児童も操作方法やキーボードタイピングに慣れ、自分の考えをタブレット上でも表現できるようになっている。これらのことを踏まえ、単元を通してロイロノート内にある共有ノートの共同編集機能を使いながら話し合い活動を行うことにより、児童同士の協働を促し、対話的で深い学びの実現を図ることができると考える。各自が読み取った内容を結び付けたり、前後の文から意味を考えたりする等、叙述を基にして友達と意見を交えながら登場人物の心情に迫っていきたい。

5 単元を見通した学習課題とICT活用

単元を見通した学習課題	ICTの活用
本単元では、登場人物に自分を重ね合わせながら読むことで、物語の全体像を捉え、考えたことを伝え合うという単元を貫く学習課題を設定する。 第1時で、題名やリード文から児童に内容を想像させ、「ちいちゃんのかげおくり」や「一つの花」等の「戦争」が題材になっていた既習の物語文と違って、現代を生きる児童と同世代の主人公「綾」が「たずねびと」を探しながら「戦争」と向き合っていく内容であることに気付かせる。そして、児童に物語文を読む上で重要な「場面のつながり」や「心情の変化」等を読み取るポイントを想起させ、主人公の「綾」とともに「たずねびと」を探しに広島へ行くつもりで読むことで、「綾」の心情の変化を追いながら物語の全体像を捉え、自分の考えを友達と伝え合うという第2時～第6時までの学習課題を設ける。 児童とともに既習内容を振り返りながら、本単元の学習課題を設定することにより、児童の主体的に学習に取り組む態度と協働的な学びを促すことにつながると考える。	児童が単元のゴールに向かうためには、①叙述を基に多様な意見を交えながら主人公の心情の変化と物語の全体像を捉えさせること、②学習の見通しをもって自分の思いや考えの変化を捉えさせることが鍵となる。 ①については、ロイロノート内の共有ノートを用いることで、一つの画面で共同編集が可能となり、児童同士での考えの即時共有や対話・交流の促進、時間の有効活用につながる。また、考えをシンキングツールにまとめさせることで、思考を可視化させ、グループ間での比較がしやすくなり、個からグループ、グループから全体へ共有範囲が広がり、より対話的で深い学びにつながる。 ②については、授業の振り返りをロイロノートを行うことでポートフォリオとして過去の学習内容との関連付けを可能にする。グループで話し合っ意見をもとめたカードや個人の毎時間の振り返りが書いてあるカードを編集し、自分の考えや思いの変化をスライドにまとめることで第6時の交流がしやすくなる。また、共有ノートで児童が一人一人の振り返りの内容を比較し参考にもできるので、振り返りの視点を学んだり振り返りの質を高めたりすることで、自己調整力を伸ばすことにもつながる。

6 単元計画

時	ねらい・学習活動	知	思	態	評価規準	I C T活用場面
1	・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、その使い方を理解するために、「綾」の心情が読み取れる表現や描写に着目し、全文を読むことができる。	○			・「綾」の心情が読み取れる表現や描写に着目し、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識しながら全文を読もうとしている。 (タブレット)	・全文を読み、「綾」の心情が読み取れる表現や描写を「共有ノート」に整理する。
2	・物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりするために、叙述を結び付けながら、広島に行く前の「綾」の心情について捉えることができる。		●		・叙述を基にして、友達と意見を交えながら、広島に行く前の「綾」の心情について捉えることで、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(行動観察・タブレット)	・語について検索する。 ・「共有ノート」で友達と意見を交えながら、「綾」の心情について「フィッシュボーン」にまとめ、他のグループと考えを比較する。
3	・物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりするために、前時までに読み取った内容や叙述を結び付けながら、広島に着いてからの「綾」の心情について捉えることができる。		●		・叙述を基にして、友達と意見を交えながら、広島に着いてからの「綾」の心情について捉えることで、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(行動観察・タブレット)	・語について検索する。 ・「共有ノート」で友達と意見を交えながら、「綾」の心情について「フィッシュボーン」にまとめ、他のグループと考えを比較する。
4 本時	・物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりするために、前時までに読み取った内容や叙述を結び付けながら、最後の場面での「綾」の心情について捉えることができる。		●		・叙述を基にして、友達と意見を交えながら、最後の場面での「綾」の心情について捉えることで、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(行動観察・タブレット)	・語について検索する。 ・「共有ノート」で友達と意見を交えながら、「綾」の心情について「フィッシュボーン」にまとめ、他のグループと考えを比較する。
5	・物語を読んで理解したことに基づいて、自分の思いや考えの変化をまとめるために、これまでの学習内容と振り返りを見直し、スライドを作成できる。	○	○		・物語を読んで理解したことに基づいて、自分の思いや考えの変化をまとめようとしている。 (タブレット)	・「ロイロノート」でこれまでの学習内容と振り返りを見直し、自分の思いや考えの変化をスライドにまとめる。
6	・物語に対する自分の考えを広げたり、新しい着眼点を見付けたりするために、自分の思いや考えの変化について友達と伝え合うことができる。		○	○	・物語を読んでまとめた意見や感想を友達と伝え合い、自分の考えを広げたり、物語に対する新しい着眼点を見付けたりしている。(行動観察・タブレット)	・「ロイロノート」にまとめたスライドを用いて、物語に対する意見や感想を伝え合う。 ・単元全体を振り返る。

●・・・指導に生かす評価 ○・・・記録に残す評価

7 本時の指導(4／6時間)

(1) 題目 たずねびと

(2) 目標 物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

(思考・判断・表現)

(3) 展開

学習活動	形態 (分)	指導上の留意点	資料・準備
1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてと活動内容を確認する。 叙述をもとにして、最後の場面での「綾」の心情についてとらえよう。	一斉 (5)	- 前時までの「共有ノート」で各グループがまとめたものを提示し、本時のめあてにつなげる。 - 単元計画と本時の活動内容を確認することで、見通しをもって学習に取り組めるようにする。	- 電子黒板 - 黒板
2 最後の場面での「綾」の心情について、前時までの学習で読み取った内容や本文の叙述を基に話し合い、「フィッシュボーン」にまとめる。	グループ (20)	- 前時までの学習で各グループがまとめた「共有ノート」を見直す時間を取ること、で、「綾」の心情を捉えるためのヒントにできるようにする。 - イメージがつかみにくい語については関連図書やタブレットで調べてもいいことを伝える。 - 他のグループの話し合いの様子も参考にさせながら、各グループの話し合いがより深まるよう促す。 - 残り3分になったら、各グループで考えをまとめるよう伝える。	- タブレット - 関連図書 - 電子黒板
3 他のグループがまとめた「フィッシュボーン」と自分のグループの「フィッシュボーン」を比較し、気になったことについて質問をする。	一斉 (10)	- 各グループの共通点・相違点に着目させ、児童から意見を引き出す。 - 質問されたグループは、なぜそう考えたのか、叙述を基に答えるよう助言する。	- タブレット - 電子黒板
4 本時のまとめをする。 叙述を結び付けて登場人物の心情の変化をとらえる。⇒物語の全体像が具体的に想像できるようになる。	一斉 (5)	叙述を基に、「綾」の心情の変化を捉えてきたことで、物語の全体像が具体的に想像できるようになったことを確認する。	- 電子黒板 - 黒板
5 本時の学習を振り返る。 [予想される児童の反応] - 綾と自分を重ねながら物語を読んできて、私も綾と同じ考えになった。 - 同じ川を見て違う表し方をすることで、綾の心情の変化が分かった。 - おばあさんの言葉が綾に決意をさせる大切な役割を果たしていた。	個人 (5)	自分の思いや考えの変化、心情などの描き方、登場人物が出会った人やものももつ役割などについて気付いたことを中心に振り返るよう促す。	タブレット

(4) 評価規準 (思考・判断・表現)

(タブレットに記述した内容をもとに評価)

十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	努力を要する状況の生徒への支援
・叙述を基にして、他の考えと比較しながら、最後の場面での「綾」の心情について多面的・多角的に捉えることで、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。	・叙述を基にして、友達と意見を交えながら、最後の場面での「綾」の心情について捉えることで、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。	・タブレットで前時までの学習内容を想起させたり、他のグループの話合いの様子を参考にさせたりすることで、最後の場面での「綾」の心情について考えられるよう、支援する。